

これまでの取組みを大きく転換

平成27年度取組み（予算概要）

巨大地震で大阪に甚大な被害

【南海トラフ巨大地震】

被害想定
・建物倒壊・火災 死者9百名
・関連建物被害 全壊7万7千棟

【上町断層帯地震】

被害全体
・建物倒壊・火災 死者1万1千名
・関連建物被害 全壊40万棟

密集市街地で大きな被害

「地震時等に著しく危険な密集市街地」

府内7市11地区 2,248ha

《全国ワースト1の規模》

目標・目指す方向性

1 災害に強いまちづくり

◆ 平成32年度までに「地震時等に著しく危険な密集市街地」を解消

⇒不燃領域率40%以上あるいは地区外へ避難できる水準の確保

◆ 延焼遮断帯の整備など災害に強い都市構造の形成

◆ 「逃げる」ための緊急の備え

2 大阪の成長を支える魅力あるまちづくり

多様な世帯が住まう、職住遊学が融合した、緑豊かな都市型住宅地として再生

〔1〕まちの不燃化

① 地区公共施設（道路・公園）の整備エリアの重点化

- ～やりやすさに捉われない
- ・必要性の高い施設に重点化

② 老朽住宅の除却の強化

～建替えに捉われない

◆ 補助制度の拡充

- ・補助対象エリアの拡大
- ・期間限定で補助率引上げ

〔2〕延焼遮断帯の整備

～交通ネットワークの優先度に捉われない
密集市街地対策として府の都市計画道路の整備をスピードアップ

〔3〕地域防災力の向上

地域の自助・共助の取組促進
⇒防災マップづくりや避難訓練等を行う市を支援

〔1〕密集住宅市街地整備促進事業費補助金による支援

【H27予算額】5億2,127万7千円

（【H26予算額】2億5,056万6千円）

各市が策定した整備アクションプログラム（H26.6公表）に基づき、地区公共施設（道路・公園等）の整備や老朽住宅の除却促進の事業拡大に対し、府補助の大幅な予算増（平成26年度比約2倍）により、整備のスピードアップを強力に支援。

【整備イメージ】



【補助対象市(7市)】
大阪市、堺市
豊中市、守口市
門真市、寝屋川市
東大阪市

〔2〕延焼遮断帯整備促進事業による道路整備

【当初予算額】8,550万円《新規》

〈密集市街地での延焼遮断帯整備の目的〉

- ① 延焼を強力に遮断
都市計画道路の整備を進め、まちを大きなブロックに分けて、延焼を強力に遮断
- ② にげる・しのぐ
密集地区から安全な区域への避難、併せて消防車や救急車など緊急車両の通行を確保
- ③ 沿道のまちづくり
広幅員の道路整備を起爆剤に、民間開発を呼び込み、まちを大きく転換

〈整備の課題と対応〉

- ・都市計画道路の整備は、広域交通ネットワークの形成に重点化

延焼遮断帯整備促進事業を創設（H26年度）

- ・密集市街地内の都市計画道路を、延焼遮断空間の確保の観点から、都市整備部と共同で整備。

【平成27年度事業】

- ◆ 三国塚口線（豊中市庄内地区）
物件調査・測量設計



都市計画道路など広い幅員の道路